

氏名	細木 三佳
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5918 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Results of a Treat-and-Extend Regimen of Intravitreal Ranibizumab Injection for Macular Edema due to Branch Retinal Vein Occlusion (網膜静脈分枝閉塞症による黄斑浮腫に対するラニビズマブ硝子体注射Treat-and-Extend法の結果)
論文審査委員	教授 大内淑代 教授 尾崎敏文 教授 難波祐三郎

学位論文内容の要旨

網膜静脈分枝閉塞症(BRVO)による黄斑浮腫(ME)に対する治療の第一選択は、抗VEGF療法である。その投与方法として、fixed dosing, pro re nata (PRN法), treat and extend (TAE法)などが報告されているが、適切な投与方法はまだ確立されていない。そこで、BRVOによるMEに対する抗VEGF療法のTAE法の有効性について検討した。方法はBRVO35眼に対し、TAE法を行い、治療間隔が12週間に延長できた患者は、PRN法に切り替えた(PRN移行群)。一方、12週間未満の患者ではTAE法を継続した(TAE継続群)。その結果、16眼(45.7%)がPRN移行群に、19眼(54.3%)がTAE継続群となった。1年時の最高矯正視力(BCVA)、中心網膜厚(CRT)は、ともに治療前と比較して有意に改善した($p < 0.001$)。1年時のBCVAは、PRN移行群がTAE継続群より有意に良好であった($p = 0.047$)。以上の結果からTAE法はBCVAおよびCRTの改善に有効であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

網膜静脈分枝閉塞(BRVO)に併発する黄斑浮腫の治療として、抗VEGF硝子体注射が第一選択になりつつあるが、その臨床プロトコールは未だ確立されていない。

本研究では、治療間隔を患者ごとに個別化した treat and extend (TAE)法を本疾患に適応してその有効性について検討した。BRVO 35例 35眼に対し、TAE法抗VEGF治療をおこない、矯正視力、光干渉断層撮影を主とする検査を施行し経過観察した。その結果、1年後までの視力と黄斑浮腫が治療前と比較し有意に改善した。平均注射回数および受診回数がそれぞれ6回前後となり、これまでの海外での報告(各約8回)と比較し減少した。

委員からは、再発例の原疾患、抗VEGF治療の副作用、他の治療法を対照とした研究の可能性等について質疑があった。本研究者は、BRVOでは高血圧との関連が重視されている、他眼疾患と異なり網膜萎縮などの眼合併をみていない、これまでの治療法との比較が困難であった等、具体的に回答した。

本研究は、網膜静脈分枝閉塞に併発する黄斑浮腫の治療プロトコールの確立を試み、患者ごとに個別化したTAE抗VEGF治療法が有効であるとの重要な知見を得た価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。